

第13回日本応用老年学会 大会長ごあいさつ

大会長 新開 省二（東京都健康長寿医療センター研究所 副所長）

このたび、第13回日本応用老年学会大会を10月20日（土）、21日（日）の2日間、東京都健康長寿医療センター研究所で開催することになりました。ご存じの方も多いと思いますが、当研究所は、1972年に設立された東京都老人総合研究所を前身とする老年学の総合研究所です。2009年に隣接する東京都老人医療センターと統合し、現在は地方独立行政法人として運営されています。これまでわが国のみならず国際的にも老年学研究の牽引役を担ってきました。5年前に新しい施設が建ちましたので、本大会はこの新施設で開催します。

さて、高齢社会で求められる高齢者像は、プロダクティブエイジング（生産的あるいは活動的な高齢期の生活）、ヘルシーエイジング（健康で長寿であること）、エイジングインプレイス（住み慣れた地域で安心して暮らすこと）の3つといわれます。第13回大会のテーマは、「健康寿命の延伸と応用老年学」としました。健康寿命が長いこと、すなわち健康長寿であることは、一人ひとりの高齢者の願いであり、また、プロダクティブエイジングを支える基盤でもあります。この健康寿命の延伸に向けて応用老年学は何ができるのか、これを皆様と一緒に探り、その成果を社会に向けて発信したいと考えています。

大会では、基調講演、シンポジウム、一般演題発表、企業展示などを企画しています。また、学会員のみならず、行政、マスコミ、産業界、高齢者団体などから広く参加者を募ります。稔り多い大会となるよう準備を進めていますので、ぜひ多くの方にご参加いただきますようお願いします。